

「家がいいね」 第19号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2005.12.6

「人間はなにゆえ そんなに忙しい？」

それは師走だからだ、そうである。我輩の手まで借りたと言われる人も居る。それは御免こうむりたい。猫に正月は無い。暑い寒い人間以上に分かっている。そこに何で区切りをわざわざ入れるのか、とんと分らない。クリスマスだ、祝日だと更に忙しくするのは、それも分からない。



夜空も冷たく澄み切り、我輩の眼も見開かれる。電球を塀だの植え込みの中まで、隣近所が競ってピカピカさせるのは迷惑センバンである。

我輩こう見えても動物の中では哲学もちょっと齧っている。夜が最も長い時期は命も乏しい。生き物たちは忙しく働かずに、いわば最も命を強く固めつつ、光の回復を待っているのである。

聞けば最近の人間の子供は寝る事も忘れて光る画面に見とれ、昼間も落ち着きがない、やたらに衝動的だと問題らしい。真つ当な動物である我輩は、昼間たつぷりと陽だまりで眠りこけるから、夜行性でも大丈夫なのだが。

県が緩和ケアセンターを作る話

十一月末に、県立病院での緩和ケア推進検討委員会の答申がまとめられ、十二月県議会に上程されます。広島県をモデルに、3年後に新しい緩和ケアセンター設立が考えられています。緩和ケア病棟は20ベッド。案には患者さんがもどる在宅との連携も視野にいれ緩和ケア支援室も併設し、緩和ケアスタッフの研修や養成も担うことになると思います。ケアセンターが出来ても、職員達が働きやすいだけの発想では困ります。三重県では、がん患者さん・家族として関心のある市民からの、こういう緩和ケアセンターをこそ作って欲しいという運動が、これから本当に必要なになります。

わたしの「チャングム」の読み方

韓流なんてと「冬ソナ」は拒否していた私が、「チャングムの誓い」は見続け、原作も一足飛びに読んでみました。面白さが目白押しでした。

宮廷料理の「医食同源」の考え方、食材・薬草などの原料に至る深さが、まず第一。次に、原作（ハヤカワ文庫）での「女医」としての困難を切り開く生き方の部分がもつと興味深く感じました。男尊女卑の時代、女性は生活健康全てに隷属し婦人病すら正しく診察を受けることも出来ませんでした。医女が治療役割を始めても、男性の医学体制の中で酌婦同然に貶められてもいたのです。チャングムは覆されぬ臨床実力を自ら獲得し、面子や建前に流される男性医にも、正しい医療倫理を示しました。自分の身を賭した現場での勉強が、最後は医学教育の資質に結実するのです。

講演会のご紹介

「育てたように子は育つ」等の著作の佐々木正美先生の講演会です。

「ちよっと気になる『ふつつ』の子」

1月29日(日) 10時〜16時 有料

伊勢市観光文化会館で 問い合わせ先『風の広場』

電話・ファクス 0596・29・0325

年末年始のお休みのお知らせ

12月28日(水) までは平常どおり

29日(木)〜1月3日(火) 休診

新年1月4日(水) からは平常どおり

在宅患者さんの緊急対応はこの期間も致します。(この時期、新規のご紹介には対応出来ません)



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp